

低成長時代の日本

尼崎市 吉田 静雄

日本を含め世界の先進国は、ほぼすべてが低成長となってきた。高度成長を誇ってきた中国も最近成長が鈍ってきている。アベノミクスでも成長は鈍い。今回の参議院選挙で自民党が圧勝し、政権与党で過半数を占めるに至った。改憲も視野に入れ、公共事業

ほとんどの家庭は車を持ち、マイホームもかなり行き渡り、多くの家庭には電気製品や不要な家具、衣類などがあふれている。カーシェアで、車も共同使用している時代である。物を買わない、消費するのではなく、リサイクルする時代である。使い捨て商品は環境を破壊する。戦前、昭和初期は、日本ではほとんどの物をリサイクルしていた。衣類、家具、新聞紙に至るまで使い捨てはほとんどなかった。

これからの日本人は、低成長時代をどのように生きるかを考えていかなければならない。

人々の関心は健康、医療、年金、福祉などである。高齢になるまで健康を保てば、医療費は少なくて済む。タバコを吸わない人や、毎年人間ドックを受

け、健康に注意しているような人には、保険料を安くしてもよいのではないだろうか。

少子化対策について言えば、保育所をいくら増やしても、子ども手当を出しても子どもの数は増えない。昔は20歳から25歳までに結婚する人がほとんどであり、子どもは4〜5人が普通であった。現在のように女性が30歳を過ぎてから結婚するようであれば、一人の子どもの産み、育てるのがやっとであろう。

戦後、日本で人口の増加が著しかった頃、アメリカのサンガー夫人が来日して、産児制限を勧めたのが人口減少の始まりである。

20歳代前半で結婚すれば、子どもは増え、3百万円を祝金として国が出しても、すぐに元は取れると思う。